

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0561
施設名	烏山杉の子保育園
施設所在地	世田谷区南烏山2-2-3
法人名	社会福祉法人杉の子保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマ：音

自分たちの身の回りにはどんな音があるか、どのように音が出ているのか。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

自分たちの身の回りにはどんな音があるか、どのように音が出ているのか、園活動の中で遊びながら様々な音に触れ、友だちや大人と楽しみながら探求する。

2. 活動スケジュール

前年度3月より：各クラスの音に対する興味把握

4月：全体会議や各クラスにて子どもたちの年齢・発達・興味に沿った「音」の探究活動を計画。講師との打ち合わせ。

4～3月：音の探求活動実践。講師と毎回の振り返り。

12月：実践の振り返り、子供の姿をもとに楽器購入

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・年間で講師依頼。活動のねらいを確認し合う。
- ・子どもの興味関心や音あそびの様子に合わせて楽器や遊具、その他保育材料の購入。
- ・購入した楽器はしまい込んでしまうのではなく、子どもが見える位置に置いたり壁にかけたりして、興味が湧いた時に遊べるように設定。
- ・活動記録のためのデジタル機器の整備。
- ・保護者への活動共有。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

毎月「音あそび」「わらべうたとお話」の講師を依頼し、一緒に音あそびを楽しみながら、楽器ごとに音の出る仕組みや、楽器が発する振動などに興味を示して探求したり、幼児クラスでは日本語の音の面白さを味わったりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

乳児クラスでは最初から楽器を使うのではなく、手足で拍子を取るなど、体を使った音出しをすると、自分の体の部位にも気づき、触ったり繰り返したりしていた。音に合わせて体を揺る遊びにより、リラックスして心地よさそうにする姿も見られる。少しずつ大きくなると、鳴らすだけでなく、楽器の順番を待っている子たちが友だちの発する音に耳を傾け、聞き入る様子も見られる。

回を重ねるに連れ、自ら手足を鳴らしたり、体を使ってリズムを取ったり、楽器を使わなくとも音で遊ぶ姿が見られた。

幼児クラスでは、楽器そのものの音がどのように響いていくのか、狭い部屋、広い部屋、静かな空間、賑やかな空間など、場所によっての違いにも気づき、様々な場所にお気に入りの楽器を持ち込んで試す姿があった。楽器の仕組みに興味のある子は、空き箱制作で自分なりにマラカスやウクレレを再現して、本物と自作楽器を聴き比べている子もいた。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器で遊びながら、様々な音の面白さ・不思議さを感じる様子はもちろんだが、回数を重ねるにつれ、自分の体の動かし方や、聞く力などともつなげて遊ぶ姿が印象的。音に合わせて自分で体を動かし、タイミングを待ったり、「ため」たり、遊びながら体のコントロールをしようとする子どもたち。楽器がない場面や場所でも、音を出しながら体を動かした楽しさを思い出しつつ、手足を使って音を出して再現して遊ぶ姿も。

大きいクラスの子たちは、よく聞き、聞き分け、音に合わせるようになり、教えられるのではなく、遊びながら「音程」を少しずつ理解していた。木琴など音程のある楽器で遊びながら、音楽や歌に合わせる心地よさ、面白さを実感する姿が見られた。